

## 1. 労働者たちの昼食事情



プノンペン経済特区入り口にある中華レストラン。そこには、労働者の1ヶ月分の給与を要する料理が名を連ねている。フカヒレスープが78ドル、アワビと海鮮鍋が88ドルなど。このレストランのアシスタントマネージャーの Neak Sophea さんは、「お客様はほぼ外国人で、その中でも中国人が特に多い」と話している。

その一方、写真はプノンペン経済特区のとある工場外の光景。袋詰めされたカレーは一袋1,000リエル(約25円)で売られている。ここで露天商がカレーを売るために、工場から権利を買い商している。Thy Bun Thoeun さんは、Evergreen Industrial garment 社の横にある広場で、昼食を頼張る労働者の1人である。「これらの食べ物は、家で作られここまで持って来て売られている。衛生面には問題があるとは思いますが、私には他に選択肢はありません。ここで毎日500リエルから1,000リエルを昼食代として費やしています」と話した。そして、午後の腹痛と、嘔吐感には彼女には珍しい事ではないと言う。5月から最低賃金が75ドルに上がり、以前より14ドルの上昇となるが、彼女は「毎回自炊する時間の余裕がない」、と話す。一方、労働者グループの American Center for International Labor Solidarity(ACILS)は、「賃金が上がれば、それにつられて食べ物の値段も上がる」、とも話す。

Evergreen 社横の広場で商いをしている Mounng Sam Eng さんは、毎日160食を売り切っていると言う。「この仕事を始めてから、この場所代として280ドルを払いました」と述べ、この場所を利用するために毎月10ドルを支払っていると言う。1,500リエルの豚肉とご飯セットも販売しているが、500リエル以上の食べ物の売れ行きは芳しくない。

Evergreen 社の人事部 Sar Rithy 氏は、「我々は、労働者にもう少し食事や衛生面に気を使って欲しいとは思っているのですが」と話す。また Rithy 氏は、「露天商より値上げの相談を受けたので、その提案を我々はチームリーダーや労働組合とも話し合いました。その結果、露天商たちに対して、同じ価格で販売するよう依頼しました」と話した。露天商の Mey Seoun さん(48)は、縫製業の労働者は5月より給与が上がるが、それに伴う利益を受けられる機会が無いことに憤り、「私は値段を上げることができません……。私は、提供する食事の量を少し減らそうと考えています」と述べた。

## 2. 4/26、Hung Wah I 工場にてストライキ

Hung Wah I 縫製工場で働く2000人以上の労働者が Por Sen Chey 工場周辺で抗議活動を行なった。理由は、会社を辞める労働者への年功加俸の支払を会社側が拒んだことにある。Hung Wah I 社の自由労働組合代表 Touch Sar 氏は、「社会問題相により設けられた昨日の組合側と会社側の交渉では、特に何も得られるものがなかった」、と話している。「私たちが求めているのはひとつだけです。契約を終了した際に支払われるべきお金です。1年に150ドルの年功加俸

を私たちは望んでいます、会社側が同意したのはほんの 20ドルです。50～60 歳代の人たちも働いていますが、彼らはもうこれ以上働きたいとは思っていません。そのため、仕事を辞める際にお金を支払ってほしいのです」と彼は話す。「5 年以上働いている労働者もたくさんいます。しかし会社から契約書を受け取っていない労働者が多数おり、彼らの行く末は不安定な状況となってしまっています。労働者の要求が満たされるまでは抗議活動を継続する予定です」と話をしている。Hung Wah I 社のマネージャーからのコメントはまだない。

### 3. 4/30、D&L Ultimat 工場にてストライキ

プノンペンの D&L Ultimate 工場において、300 人以上の縫製業労働者が抗議活動を行なった。彼らの要求は、工場内で新しく組織した労働組合の新リーダーに選ばれた労働者の復職である。カンボジアアパレル労働者組合連盟の職員である Suth Seam 氏の話によると、Dangkor 地区にあるこの工場の労働者達はタイヤに火をつけてスピーカーで大音量の音楽を流し、ダンスをしたり大声をあげたりしていた。「私は何にも悪いことをしたわけじゃありません」と、解雇された組合リーダーである Pen Sophal さんはポスト誌に昨日語った。工場は彼が労働者を抗議活動に導いたとして解雇したが、Pen Sophal さんの話では、彼自身そんなことをした覚えはなく、ただ労働者にもっとしかるべき権利を与えるべきだと記した書類を工場に提出しただけであるという。加えて「私は抗議活動をけしかけたことはありません」と話している。現在、労働者達は、「会社が彼を復職させ、他の労働条件が受け入れられるまでストライキを続ける予定でいる」と言う。また D&L Ultimate 社はコメントを拒否している。



### 4. 4/22、クメール語がグーグルで対応開始

Google が 4 月 19 日より翻訳サービスを行っているウェブサイト Google Translate において、クメール語の対応をスタートさせた。このサイトで取り扱われる言語は、クメール語で 66 カ国語目となり、アゼルバイジャン語やウルドゥー語といった他 11 の言語とともに取り扱い言語の仲間入りをした。プロダクトマネージャーの Divon Lan 氏は、この翻訳システムは英語で形成されているインターネット内の情報を理解したいと考えているカンボジア人や、クメール語に興味を持つ外国人などに広く利用されるだろうと話している。「翻訳機能はまだ初期段階の試作品であるため、翻訳の際にエラーが発生する可能性もありますが、文章は完成に近いレベルのもので利用者はだいたいの意味は掴むことができるでしょう。もっと多くの人々がこの機能を利用してくれれば、システムの改善点も見えてきてより良く改善されていくはずです」と話した。

### 5. 4/22、邦人殺人の犯人逮捕

今年 3 月にプノンペンで日本国籍のキタムラコウセイさん(44 歳)を殺害した容疑で、In Sok Chheng(22 歳)と Pov Noch(28 歳)、そして 3 人目の男が逮捕され、Prey Sar 刑務所に送致された。プノンペンの裁判所は 3 人に対し違法武器使用、強盗、故意の殺人といった容疑をかけて、Prey Sar 刑務所にある代用監獄に送った。しかし他 2 人がいまだ逃走中であるようだ。

内務省の Internal Security Police Department に勤める Chhay Sinarith 氏は、In Sok Chheng(22)と Pov Noch(38)、そして名前の特定されていない 25 歳の男の 3 人は、日本国籍のキタムラコウセイさんを、ストリート 288 にある Maliya Apartment complex の正面で襲撃し、発砲したとしている。このアパートがある Boeung Keng Kang I は、普段はとても穏やかで静かな地域である。トクトククの運転手も負傷しているこの発砲事件は、3 月 3 日の早朝に起こったもので、キタムラさんが 4 つの弾丸を身体に受けて搬送中に死亡している。捜査の結果、警察は Meanchey 地区にある借家において 4 月 19 日容疑者たちを逮捕したが、犯行グループの残り 2 人は逃走した、と Sinarith 氏は話している。Chamkarmon 地区のある匿名の警察官は昨日ポスト誌に対して、キタムラさんは殺害される数時間前に NagaWorld のカジノでギャンブルをしていた、と証言している。容疑者たちはキタムラさんをカジノから自宅までつけていったのち襲撃し、ギャンブルで買ったお金や貴金属を奪ったものとされる。プノンペンの日本大使館は、逮捕に関して、「彼らは、武装強盗団に属しており互いに顔見知りです。以前にもプノンペンで武装強盗を働いたことがあります。3 人の容疑者の話によれば、事件に関与した犯人がまだあと 2 人いるということなので、警察官はその 2 人の逮捕に集中しているでしょう」と話している。容疑者を逮捕した警察官はバイクや携帯電話、銃弾の入ったピストル K59 型などを押収している。

## 6. 4/23、フン・セン首相、プレアビヒア判決に自信

フン・セン首相は、オランダのハーグにある国際司法裁判所で審議されているプレアビヒア寺院問題に関して、カンボジア弁護団と他国の弁護士に対して、静粛かつ穏便に対応するようにと促した。「私はタイの Yingluck Shinawatra 首相と面会して、こう話しました。裁判の結果がどうなるかは問題ではない。カンボジアとタイの関係はまるで舌と歯のようなもので、決して敵国にはならない」と彼は話す。

Prey Veng 地区にある Serey Udom で行われた法要のなかで、首相は数百人もの村人に向かって、「4 日間にわたった審問は 2 つの主要ポイントに要約することができる。ひとつは、カンボジアは 1962 年の国際裁判では帰属がはっきりとしなかった寺院周辺の紛争地域に関して、寺院そのものに関しては国際司法裁判所がカンボジアのものであると一度決定しているが、今度こそはっきりとした判決を出してほしいと願っていたこと。もう一つは、カンボジアとタイは寺院のそばにある国境に沿った 4.6 四方キロメートルの土地を争っており、2008 年以降死傷者を出す衝突が何度か繰り返されている。今年中には国際司法裁判所が介入し抑制を行う予定である」と話した。

フン・セン首相は、国際私法裁判所が 1962 年の判決を再解釈するだろうと予測しており、その理由は暫定的に武装解除されている地域に関する判決を出さなくてはいけないからだとしている。さらに、フン・セン首相は、国際司法裁判所がタイとカンボジアの両国に対して、それぞれがどの地域を“寺院付近”という言葉の定義づけをしているかを尋ねた事を明かし、それは裁判所が両国の板挟みになっている状況をなんとかしようとしているからだと話した。カンボジアの使節団をハーグまで率いた外務省の Hor Namhong 氏は、昨日プノンペン国際空港に到着し、「タイの外務省職員 Surapong Tovichakchaikul 氏と会合を行い、互いに裁判所の判決に従うことに関して同意をした」、と話をしている。

両国はこの問題に関して落ち着いて対処をしたいとアピールしているが、タイミングの悪いことにプノンペンでは 6 月に世界遺産委員会が行われる予定で、この会のなかでプレアビヒア寺院のことも話題にのぼるだろうと予想される。国境で起こった 2008 年の武装衝突は、プレアビヒア寺院が世界遺産に登録されたことが発端となっているのだ。

## 7. 4/29、カンボジアの輸出額が 20%増

今年最初の四半期におけるカンボジアの輸出額が、昨年同時期に比べて 21 パーセント増加したことを政府職員は明らかにしており、またこれはカンボジアの経済発展にとってとても良い兆候である、としている。ポスト誌が入手したカンボジア商務省の輸出データによると、今年最初の 3 ヶ月ですでに輸出額は計 16 億 5 千ドルを超えており、昨年同時期の 13 億 6 千ドルを大きく上回った。

## 8. 最近の外資の進出状況



### ①4/25、カンボジアで初の乳製品工場がプノンペン経済特区に参入

カンボジア初となる乳製品工場をプノンペンに建設するという計画がある。ベトナムを拠点とした乳製品工場の工場主たちは、この計画が乳製品に対する地元の需要を満たすことを期待している。ベトナムを拠点とする会社 Vinamilk の現地流通業者 BPC Trading に勤める Manoj Nutchanart 氏の話によると、プノンペン経済特区に建設予定のこの工場は敷地面積およそ 2.7 ヘクタールとなり、加糖練乳やヨーグルト、UHT 乳(超高温熱処理牛乳)を製造する予定であるようだ。

BPC Trading と Vinamilk は、工場設立のための新会社 Khmer Dairy Products を通して共に事業を行っていくための合併事業計画に来月サインをする予定でいる。「この会社の 51%は Vinamilk に保有されることとなり、来年末には工場での生産をスタートできるでしょう。我々は Vinamilk 社の製品をもう長いことカンボジアで販売しています。よく売れているので、ここに工場を建てたらいいのではと考えました」と Manoj 氏は述べている。Vinamilk のチェアマンである Mai Kieu Lien 氏の話では、会社がカンボジアに輸出している乳製品の総額は毎年 4000 万～5000 万ドルにまで上っているという。新工場建設にかかる費用や製品の生産量などに関しては明らかにしていないが、BPC Trading と Vinamilk はカンボジア開発評議会からの承認を待っている中、すでに経済特区内の土地借用費用 50 年間分を支払っているという。

②5/10、かつら大手のアートネイチャーは、カンボジア首都プノンペンに生産子会社「アートネイチャー・カンボジア」を、同社の全額出資で設立すると発表。資本金は 50 万ドルで、9 月設立の予定。アートネイチャーは、「事業拡大に向け、フィリピンでの一国集中生産によるリスクの軽減と、製造原価の低減が目的」としている。同社は昨年 12 月、東南アジア市場の開拓を目指し、中国・上海市に続く海外拠点として、シンガポールに販売子会社を設立した。

③5/10、中国の床板加工会社の大連科冕木業(遼寧省庄河市)は、カンボジアで木材の加工事業を行うことを決定。現地で調達する原木を中国にも輸入する計画。資本金は 500 万米ドル。